

名古屋芸術大学グループ 通信

04
June 2007

Feature

〈特集〉いっそう選びやすく、柔軟に。

美術学部・ デザイン学部 新しいコース編成が誕生

Entexit

エンタジット

- 2008年度入試日程
- 2007年度オープンキャンパス
- アート&デザインセンター 2007/2008展覧会スケジュール

Close up! NUA-ism

～進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-OB

「一生勉強、一生青春」NHK交響楽団トランペット奏者 板本 浩規

NUA-STUDENT

「織布を外す瞬間が、もうドキドキなんですよ」

デザイン学部 テキスタイルデザイン選択コース 舟橋 美月

News/topics

ニュース&トピックス

音楽学部

- 第34回卒業演奏会
- オペラ公演「カルメン」
- 大学院音楽研究科第9回修了演奏会
- 名古屋芸術大学オーケストラ ワークショップ
- 音楽教育学会東海地区例会で本学学生が修士論文と卒業論文を発表

美術学部/デザイン学部

- 第34回卒業制作展/記念講演会 第11回大学院修了制作展
- 美術学部絵画科日本画コースによる
フランス サン・ヴァンサン大聖堂壁画「聖母の御眠り」模写について

人間発達学部

- 2007年4月 人間発達学部 子ども発達学科が出発しました!
- 人間発達学部 新入生の声
- 子ども発達学科 オリエンテーション合宿
— 三谷温泉「ホテル明山荘」 —

大学・大学院

- 2007年度 入学式
- 2007年度 前期オリエンテーション
- 新入生歓迎会

短期大学部

- 音楽科研修に参加して

専門学校

- 名古屋保育・福祉専門学校 2007年度入学式

幼稚園

- 幼稚園入園式

Column-NUA

コラムNUA

「サンタさん、大好き!」

デザイン学部 教養部会 准教授 荻原 雄一

Master Artist

マスターアーティスト

「少しの勇気」

名古屋芸術大学 美術学部絵画科日本画コース教授

白井 久義

Information

インフォメーション

- 2007年6月以降の主な行事・イベントスケジュール
- 編集後記



NAGOYA
UNIVERSITY
OF ARTS

名古屋芸術大学グループ

<http://www.nua.ac.jp>

- 名古屋芸術大学/大学院：音楽研究科 美術研究科 デザイン研究科
- 学部：音楽学部 美術学部 デザイン学部 人間発達学部
- 名古屋芸術大学短期大学部/音楽科 保育科
- 名古屋保育・福祉専門学校/保育科 介護福祉科
- 名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園
- 滝子幼稚園



2008
new Departments
new Courses

<特集> いっそう選びやすく、柔軟に。 美術学部・デザイン学部 新しいコース編成が誕生

美術を取り巻く社会環境は、年々多様化の一途をたどっています。こうした出口にリアルに対応するため、新たに美術学部は6つの領域、10のコースに再編成されます。従来にも増して幅広い知識と専門性の高いスキルを身につけるための工夫が凝らされています。また、全コースにわたってコンピュータを使った「芸術情報処理演習」を開設。大学間国際交流もいっそう推進し、大学間相互交流の中で芸術の世界で国際的に活躍できる人材を育成していきます。

■ 多様化するニーズに対応。3学科→1学科10コースとなる美術学部 ■

美術学部

美術学科

日本画領域

日本画コース

洋画領域

洋画1コース

洋画2コース

彫刻領域

彫塑コース

立体造形コース

工芸領域

ガラスコース

陶芸コース

アートクリエイター領域

アートクリエイターコース【新設】

美術文化領域

美術文化コース

アート・スタディ選択コース

アート・コミュニケーション選択コース

版画コース※

※各2、3年次より版画コースを選択できます。
(但し、美術文化コースを除きます。)

School
of
Art

美術学部

■ 美術学部の再編：1学科10コースへ

美術学部では、高校生の美術に接する環境の変化に対応すること、更に充実した専門教育を行うことを可能とするため、2008年度入試より現在の3学科体制から美術学科1学科10コース体制とし、新たなカリキュラムで教育を行います。新コースとして「アートクリエイター・コース」を開設し、入試方法も大きく変更されます。

■ 『アートクリエイターコース』の概要、目的

今回の新美術学部の特色の第一はアートクリエイターコースの新設です。これは、既存の美術・デザイン及び他領域との横断・交流ができ、従来のカテゴリーに納まらないクリエイター、または地域の産業の動向を踏まえた新しい美術のあり方を切り開けるクリエイターを育成するために開設

するものです。この入試領域では、実技入試を課さず、ユニークな発想、構想力、理解力を測る入試を行います。必ずしも入学前に十分な美術教育を受ける機会に恵まれなかった学生でもクリエイターとしての資質があれば大学において高度な美術教育を受ける可能性を開くためでもあります。それに伴い基礎実技の入学前教育を行い、大学入学後にスムーズに大学生活を送れるよう橋渡しを行います。入学後のカリキュラムでは、フィギュア、アニメーション、オブジェなどの作成が学べ、学外演習を通じて文化施設との交流、地場産業の職人の現場を経験できます。モノづくりの地で、モノづくり人材を育てます。

■ 専門科目の強化と『洋画1、2』の開設

絵画(日本画、洋画1、洋画2)、彫刻(彫塑、立体造

形)、工芸(陶芸、ガラス)の高度な専門的技術を習得できる既存のコースについては、その教育内容を更にパワーアップしていきます。特に洋画領域では、古典絵画と近代絵画の世界の研究に焦点を絞った洋画1のコースと、従来からの絵画手法を踏まえつつも、現代絵画の多様な世界をも射程に入れた洋画2のコースを開設し、学生の関心や資質に応じた教育を行います。日本画、洋画、彫刻、工芸の各領域では、これまで通り美術の基礎的な技量の習得度を測る入試を行います。

■ 『美術文化領域』について

美術史研究や美術の普及・振興に関わる人材の育成を目指してきた美術文化コースでは、選択コース名をアート・スタディ選択コースとアート・コミュニケーション選択コースにし、より実践的

ジャンルを超えた新しいクリエイターを育てる。アートクリエイターコース

これまでのジャンルを超えた新しいクリエイターを育てるために「アートクリエイターコース」が開設されます。既存の美術やデザイン、工芸などさまざまな分野との横断や交流を通じて新しい発想や技術を身につけたクリエイターを育てます。



准教授
西村 正幸
Masayuki Nishimura

キャンパスのある中部地方に根付いた伝統工芸や産業の場を新しい発想を通じて活性化させる人材の育成を目指しています。実際の授業では幅広い分野の技術と発想力を学ぶことができ、学外演習では中部の文化施設との交流や地場産業の職人の現場が体感できます。古くからモノづくりのメッカとして栄えたこの中部地方で、新しいモノづくりのあり方をとことん探求していきます。繊維業が栄え、近年では自動車産業をはじめとした製造業が盛んとなり、今では“モノづくり王国”といわれる一大拠点として、日本だけでなく世界からも注目されています。

モノづくりの地で、モノづくりの人材を育てる!

さまざまな制作現場を通じてモノづくりのへそを学ぶ。

【どんな人材を育成するのか】

- 既存の美術・デザインおよび他領域との横断・交流ができ、従来の枠組に納まらないクリエイター。
- 地域のモノづくりに関わる産業の動向を踏まえた新しい美術のあり方を切り開けるクリエイター。

【どんな入試?】

- ユニークな発想、構想力、理解力を測り、原則として実技試験は行いません※。
- ※B日程入試を除きます。



01.



02.



03.



04.



05.



06.



07.



08.



09.



10.

- 活躍が期待される分野
アーティスト、職人、マスメディア・広告・イベント会社などのプランナー、カメラマン、プロデューサー、企業の広報担当など、さまざまなモノづくりに関わる分野での活躍が期待されます。

准教授
岩井 義尚
Yoshinao Iwai



たとえば食玩のフィギュアひとつとっても、優れた原型師の深いワザが潜んでいます。そうしたモノづくりのスピリッツや技術に触れながら、新しいクリエイターのあり方を学んでいきましょう。

01.02. 奥野 規 (1999年 デザイン科版画選択コース卒業/カメラマン)
01.02.雑誌掲載用に撮影した写真

03.04. 松岡 徹 (1992年 版画選択コース 研究生修了/造形作家、本学 版画コース非常勤講師):
03.『見えてくる。』(2003年 佐久島)
04.紙で作った照明<100個>(2003年 佐久島)

05.06. 石倉 悦加 (1997年 版画選択コース 研究生修了/イラストレーター):
05.『白山羊家-bamboo-』(2006年)
06.おでかけかばん (2007年)

07.08. 服部 奈奈 (2003年 大学院同世代表現研究版画修了/現代美術家):
07.『メス鳩は優しい汁を嗜く』(2006/布にアクリル絵具)
08.『白飯喰らうフォルトゥーナ』(2002/銅版画)

09.10. 犬飼 真木子 (1994年 洋画コース版画選択コース卒業/アーティスト):布のオブジェ

で楽しい内容のカリキュラムに増強します。今回の改編に際して、このコースでは3年次に海外美術研修を行い、実地で優れた美術作品や文化遺産について学べる機会を設けます(※航空運賃、宿泊費は学費に含まれます)。美術文化の領域では、これまで通り鑑賞力、文章力、学力を測る入試を行います。

■『版画コース』について

2年もしくは3年に選択できる版画コースでは、デザイン学部メディアコミュニケーションデザイン選択コースと連携して、既存の美術・デザイン及び他領域との横断・交流を踏まえて社会に発信できる芸術家を育成すべく、カリキュラムをパワーアップします。

■美術学部入試の特徴

入試方法についても大きな変更があります。彫刻、工芸、アートクリエイター、美術文化の各領域においてAO(アドミッション・オフィス)入試を開設します。また、A日程入試、B日程入試では、一般試験と大学入試センター入試利用の二つの形態で入試を行い、同一領域での併願も可能とし出願機会の拡大を図りました。さらに、アートクリエイター、美術文化領域では大学入試センターの成績のみの出願枠を設けました。地域入試として浜松で入試を行うことも新たな試みです。

■多彩な選択科目

今回の改編では、各コースの充実したコア・カリキュラムに加え、全学部に開かれた技法の授業を多数開設します。芸術大学ならではの充実した

施設で多彩な技法が学べます。

例：陶芸、吹きガラス、フラワーアート、フレスコ、篆刻、木彫、石彫、鋳造、写真、デッサンなど。
(※受講人数に制限がある場合があります)

美術学部の全コースに向けても「芸術情報処理演習」を開設し、コンピュータを活用した作家ポートフォリオや広報材料の作成のノウハウを学び、在学中はもとより卒業後も継続して創作活動を続けるための自己プロモーション能力の錬成が図れます。さらに自らの創作活動に対する理論的な反省や歴史的な位置づけを行うことでより高度な創作に展開できるよう、理論系の科目も増強しました。

これまで以上に大学間国際交流をいっそう推進し、大学間相互交流の中で芸術の世界で国際的に通用する人材育成を目指していきます。

■ デザイン学部

デザイン学部もこれまでの8コースに、新たに「メディアコミュニケーションデザイン選択コース」と「セラミックデザイン選択コース」の2コースを加え、今まで以上に選択の幅を広げることが可能となります。メディアコミュニケーションデザイン選択コースは、美術学部の版画コースと連携をとりながら、アートとデザインの交流の中で新しいメディア研究を行います。セラミックデザイン選択コースは、セラミックを素材にした住空間のまわりのさまざまなデザインについて学ぶコースです。

■ 2コース追加、いっそう選択の幅が広がるデザイン学部 ■

デザイン学部

デザイン学科

メディア&コミュニケーションブロック

ヴィジュアルデザイン選択コース

イラストレーション選択コース

メディアデザイン選択コース(映像デザイン&メディア表現)

メディアコミュニケーションデザイン選択コース【新設】

プロダクト&スペースブロック

インダストリアルデザイン選択コース

スペースデザイン選択コース

セラミックデザイン選択コース【新設】

クラフトブロック

メタル&ジュエリーデザイン選択コース

テキスタイルデザイン選択コース

ライフスタイルブロック

デザインマネジメント選択コース(リサーチ&プランニング)

学部デザイン

School of Design

new Course

さまざまな素材をパソコンで統合、作品化を通じて新しい表現技法を学ぶ。メディアコミュニケーションデザイン選択コース

メディアが多様化する現代、ヴィジュアルイメージによるコミュニケーションの重要性はますます高まっています。写真、版画、コンピュータといった技法や装置を活用して、新しいヴィジュアルアートワークの可能性を探ります。作品を制作することだけに重点をおくのではなく、アウトプットに対して常に配慮し、プレゼンテーションやメディア論などについても同時に学んでいきます。大判写真、アートブック、プリンティングなどの独自性のある制作研究に取り組みながらグローバルに展開できるように、コミュニケーション力のあるデザインワークへの発展を目指します。実習にあたっては美術学部版画コースとも連携をとり、デザイン・美術2つの分野で横断的に研究を進めていきます。



准教授
檀田 珠実
Tamami Hitsuda



ジル・ドゥルーズ 著「無人島」 装丁デザイン：戸田 ツトム
河出書房新社 表紙写真：檀田 珠実

new Course

プロダクトデザインからセラミックアートまで幅広く研究。セラミックデザイン選択コース

古くて新しい素材、セラミック。本コースでは人々の暮らしに欠かせないセラミック素材を対象に、その素材研究や表現技法を基礎として学びます。その上でテーブルウェアや食器などのデザイン、照明器具などのプロダクトデザイン研究や、都市空間を演出するセラミックアート、さらにはクラフトデザインの研究や実習を通して、将来はプロダクトデザイナーやクラフトデザイナーとして幅広く活躍できるよう、総合的な技術や知識を身につけていきます。



「キュウショクタンノシク」
鎌飼 明子 (ID) 2005



2008年度入試日程

2008年度名古屋芸術大学の学部及び大学院の入試日程が決まりました。本年度との相違点は、人間発達学部が正規の入試日程として加わったことです。また、来年度から学科の再編が行われる美術学部で、美術文化以外の領域にもAO入試が導入されます。さらに、A日程・B日程入試では一般入試とは別に、大学入試センター試験併用入試が導入され、同一領域での併願も可能となります。加えて地域入試に浜松地区が設定されるなど大きく変更されています。詳細は、両キャンパスの広報入試課にお問合せください。

- 東キャンパス (0568) 24-0315 (代)
(音楽学部・人間発達学部)
- 西キャンパス (0568) 24-0325 (代)
(美術学部・デザイン学部)

2007年度 オープンキャンパス

■ 音楽学部

6月16日(土) 10:00~
9月29日(土) 10:00~

■ 美術学部・デザイン学部

6月16日(土) 入門編 10:00~
7月14日(土) 体験編 10:00~
9月16日(日) 進学編 10:00~

■ 人間発達学部

6月16日(土) 10:00~
7月22日(日) 10:00~
8月25日(土) 10:00~
9月29日(土) 10:00~



学部	入試種別	出願期間	試験日	合格発表日	
■ 音楽	AO入試	9月25日~10月 2日	10月 7日	10月11日	
	推薦入試	10月19日~11月 2日	11月10日	11月16日	
	A日程入試	1月 4日~ 1月25日	2月 5日・6日	2月 8日	
	3年編入試	1月 4日~ 1月25日	2月 6日	2月 8日	
	特待生入試	1月 4日~ 1月25日	2月 6日	2月 8日	
	B日程入試	2月27日~ 3月21日	3月25日	3月26日	
	■ 大学院音楽研究科	A日程入試	11月 5日~11月22日	12月 1日	12月 6日
	B日程入試	2月27日~ 3月21日	3月25日	3月26日	
■ 美術	AO入試	8月20日~ 9月 6日	9月15日	9月19日	
	推薦入試	10月11日~10月25日	11月 4日	11月 9日	
	社会人入試	10月11日~10月25日	11月 4日	11月 9日	
	社会人シニア入試	10月11日~10月25日	11月 4日	11月 9日	
	3年編入試	11月 5日~11月20日	12月 2日	12月 7日	
	地域入試(浜松)	11月15日~11月29日	12月 8日	12月14日	
	A日程一般入試	1月14日~ 1月28日	2月 6日	2月12日	
	A日程センター併用	1月14日~ 1月28日	2月 6日	2月12日	
	センター試験利用	1月30日~ 2月13日	センター試験のみ	2月28日	
	B日程一般入試	2月21日~ 3月 7日	3月17日・18日	3月21日	
	B日程センター併用	2月21日~ 3月 7日	3月17日・18日	3月21日	
	■ 大学院美術研究科	I 期入試	11月 5日~11月20日	12月 2日	12月 7日
		II 期入試	1月23日~ 2月 7日	2月19日	2月22日
■ デザイン	AO入試	8月 2日~ 8月10日	8月22日	8月24日	
	AO3年編入試	8月 2日~ 8月10日	8月22日	8月24日	
	推薦入試	10月11日~10月25日	11月 4日	11月 9日	
	社会人入試	10月11日~10月25日	11月 4日	11月 9日	
	3年編入試	11月 5日~11月20日	12月 2日	12月 7日	
	地域入試(浜松)	11月15日~11月29日	12月 8日	12月14日	
	A日程入試	1月10日~ 1月24日	2月 4日又は5日	2月 8日	
	地域入試(東京)	1月30日~ 2月13日	2月21日	2月28日	
	B日程入試	2月21日~ 3月 7日	3月18日	3月21日	
	■ 大学院デザイン研究科	I 期入試	11月 5日~11月20日	12月 2日	12月 7日
	II 期入試	1月23日~ 2月 7日	2月19日	2月22日	
■ 人間発達学部	推薦A入試	10月 9日~10月29日	11月 4日	11月10日	
	推薦B入試	11月12日~11月26日	12月 2日	12月 8日	
	社会人入試	11月12日~11月26日	12月 2日	12月 8日	
	一般A日程入試	1月10日~ 1月28日	2月 2日・3日	2月 9日	
	センター前期入試	1月10日~ 1月30日	センター試験のみ	2月16日	
	センター後期入試	2月18日~ 3月 3日	センター試験のみ	3月13日	
	一般B日程入試	2月18日~ 3月 3日	3月 8日	3月13日	

アート&デザインセンター 2007/2008 展覧会スケジュール



Open / 12:00 ~ 18:00 (最終日は17:00まで)
日曜・祝祭日休館
[入場無料] どなたでもご覧いただけます。
お問い合わせ先 / (0568) 24-0325 (代)

会 期	展覧会名	内 容
6月 1日(金)~ 6月13日(水)	FROM REMISEN #9 Karen Degett + Regis Rizzo	絵画ほか
6月15日(金)~ 6月20日(水)	書道演習作品展	書道作品
6月22日(金)~ 7月 4日(水)	Since	同時代表現研究
7月 6日(金)~ 7月11日(水)	名古屋芸術大学新任教員展	新任教員作品展
7月13日(金)~ 7月18日(水)	前期交換留学生作品展	本学交換留学生の作品
7月20日(金)~ 7月25日(水)	素材.展	デザイン(クラフト)学生作品
7月26日(木)~ 9月14日(金)	夏期休館	
9月16日(日)	あいち子ども芸術大学2007「文化芸術体験講座」 ~黒板家族を作ろう	こどもワークショップ
9月19日(水)~ 9月26日(水)	ソフトスカulptチャーへ展VII	造形選択コース作品
9月28日(金)~10月 3日(水)	造形科彫塑コース作品展	彫塑選択コース作品
10月 5日(金)~10月17日(水)	境界から見えるもの(洋画コース)	洋画/インスタレーション
10月19日(金)~10月24日(水)	ウェアラブル・テキスタイル展	テキスタイル作品
10月26日(金)~10月31日(水)	版の方法論#4	版画
10月26日(金)~10月31日(水)	「見せ物」展(デザインと文化)	デザイン学部学生作品
10月26日(金)~10月31日(水)	メダル・コンペ選抜展	メダル
11月 3日(土)~11月21日(水)	企画展(デザイン) モーターショーモデル開発&プロダクトデザイン展	2007年度客員教授 奥山清行デザインワーク展
11月24日(土)~11月28日(水)	洋画大学院+教員展	洋画
11月30日(金)~12月 5日(水)	幼稚園児たちのゲイジツ展	絵画+ランタン
12月 7日(金)~12月12日(水)	後期交換留学生作品展	本学交換留学生の作品
12月14日(金)~12月19日(水)	工芸選択コース作品展	ガラス・陶芸
12月23日(日)~ 1月 6日(日)	冬期休館	
1月 7日(月)~ 1月11日(金)	日本画3年作品展	日本画
1月15日(火)~ 1月19日(土)	JAGDA新人賞受賞作家作品展2007	デザイン
1月25日(金)~ 2月 6日(水)	AFTER REMISEN#9 近藤千鶴+早川知加子	デンマーク滞在制作帰国展



Vol.1 NUA-OB 析本 浩規

NHK交響楽団トランペット奏者。
1962年(昭和37年)生まれ。
岐阜県立斐太高校出身。84年 名古屋芸術
大学音楽学部 器楽科弦管打専攻卒業。和
久田照彦、津堅直弘両氏に師事。卒業後
は東京フィルハーモニー交響楽団に入団。
90年 NHK交響楽団に移籍。96年には、国
際ロータリークラブの奨学金を得て、シュ
トゥットガルト音楽大学に留学。
トランペット奏者、指導者として各方面
で活躍中。

「トランペットを始めたのは、小学生になって鼓笛隊のパレードを観て『カッコいいなあ』って。野球やサッカーに憧れるのと同じような感覚ですよ」 屈託のない笑顔で話し出す。少年のような一途さと素直さは、少しも失われていない。小学5年になり、鼓笛隊の募集が始まるとすぐさま応募した。こうしてトランペットと出会った少年は、一途な性格もあって一心にのめり込んで行く。

「当時、少年野球もやっていたんです。毎日、野球をやって、帰ってからトランペットの練習。もうヘトヘトで、夕飯も喉を通らないくらい(笑)。見兼ねた父親が『中学になったら、どちらかを選べ』と」 無理を言って楽器を買ってもらっていたことも少年の心にはあった。音楽の道を選んだ。中学、高校の吹奏楽部を経て、音楽学部へ入学。

「学生時代は、一番伸びましたね。学生になったとき、先輩たちを見ると自分ではできないことばかりで、とにかく自分もできるようになりたいと一生懸命でした」 時間を惜しんで練習に打ち込む姿は、学友たちにも一目置かれる存在であった。「壁に当たるじゃないですか、そしてその壁を乗り越えたとき、目の前がパッと開ける。本当に明るくなるよ

うに感じるんです。そんな心地よさも学生のときに知りました」 師との出会いも、大きく自分を伸ばしてくれた。



卒業を迎え、音楽家として、オーケストラの一員として生きること志望した。しかし当初から順風満帆だったわけではない。「オケマンになれればいいなって、軽く考えていたんです」 山形交響楽団、群馬交響楽団とオーディションを受けるが、声がかかるとはなかった。「それこそコテンパンにやられました。大学だけでは、名古屋にいただけでは、知ることのない世界があることがよくわかりました」 そこから奮い立った。「こんなことで負けられるか、絶対合格してみせる」

最初の生半可な気持ちは吹き飛んでいった。少年時代から変わらぬ負けん気と強い気持ちが、演奏を変えていった。そして東京フィルハーモニー交響楽団へ入団することとなる。それ以後、N響で活躍する現在まで、そのハートは変わらない。

「N響は、まるで熱湯風呂ですよ(笑)」

国内屈指の楽団は、優れた才能と個性が集まり、お互いに刺激し合い切磋琢磨し続ける激しく厳しい世界だという。「レベルアップのために、優れた指揮者やプレイヤーを招いて共演することがありま

すが、団員のそれぞれが短期間ですごく上手くなって行くんですよ。練習に参加するあいだが空いてしまうと、行くのが怖いほどです。自分の居場所がない！って」 話ながらも瞳に意志の光が宿る。「負けないように。ひたすら練習、練習、練習・・・ですよ(笑)」 ネガティブなところは微塵もない。己を磨く高大なる世界を、心から楽しんでみることが窺える。



大学の講義は、通常一人の師と多数の学生という形にしかなりえない。しかし、芸大には、レッスンがある。レッスンを通しての一对一の濃厚な関係こそが、芸術では何より大切と言う。「レッスンを通して、先生の生活、考え方、人生までが伝わってくる。そして、先生の人生の素晴らしさが解ってきたとき、その楽器をやってきたことが好きになる。先生の人間性そのものが好きになって来る。それこそが音楽大学だと思う」 先達の言葉は、重く美しい。

「一生勉強、一生青春」 座右に置く言に、相田みつを氏の言葉を引いた。己を磨き続け挑み続ける氏の姿勢。その中で、失われない素直さと謙虚さに、言葉が額面通りに胸に落ちてきた。



写真左下は普段の舟橋さん。就職活動中の取材となった。



織布を外す瞬間が、もうドキドキなんです

友人からもらったおもちゃの織機。本物同様、ちゃんと織物ができる。「これで試作品をつくることあるんですよ」



初々しいリクルートスーツに身を包み、作品の横にたたずむのは舟橋 美月さん。デザイン学部テキスタイルデザイン選択コースの4年生。ただいま、就職活動の真っ只中。お忙しい中、話を伺った。

モダンで大胆な絵柄を、友禅を使って染め上げた作品「明朗憂鬱」は、ジャパン・テキスタイル・コンテスト2006でシーズ賞（学生部門で将来のテキスタイル界を担う“種”に贈られる）を受賞。美しい色調とデザインの構成力が大きく評価された。舟橋さんいわく、タイトルの明朗憂鬱は自己の内面を表現したものの。背景の柔らかで明るい色調と美しくも暗い色調。快活でありながらも、思いが複雑に絡み合う女性らしい内面を感じさせる。絵柄を構成する複雑な曲線が印象的だ。

「これ、らくがきが元になってるんですよ。私の作ったもののアイデアは、みんならくがきが元なんです。らくがきを



拡大コピーして、実物まで引き伸ばして…」

友禅染の他にも自作のフェルトの帽子、編みこみのストールを手に、言葉があふれ出す。作品への思いの強さが滲み出る。瞳にも熱が入る。

「制作しているときって、本当に無心っていうか、楽しいんです。時間が経つのを忘れます」自分が夢中なことを、若い女性らしくおきやんに話すが、制作に打ち込む姿勢は一途なもの。教室が閉ざされる夜9時まで機織りに打ち込むこともしばしばだったそうだ。

「機織って出来たものは、巻き上がってしまうので広げてみないと出来上がりがどうなのかわからないんですよ。織布を外す瞬間が、もうドキドキなんです」

幼少から絵が好きで、幼稚園に通う頃は、毎日1冊ずつノートを埋めるほど絵を描いていたという。絵の好きだった少女は、温かな家族に生まれ、当然のよ



Vol.2 NUA-STUDENT 舟橋 美月

デザイン学部 デザイン学科
テキスタイルデザイン選択コース



椅子の座面を考案する課題。用いる技法はそれぞれが考える。プロダクティブ要素の強い出題だ。

「明朗憂鬱」
ジャパン・テキスタイル・コンテスト2006
シーズ賞受賞
友禅染で制作。デザインと色調が高い評価を得た。

うに美術の道を選んだ。そして、本学へ入学、2年になり機織と出合った。「私にとって、ものづくりの原点はこれかもって思ったんです」現在は、織物会社への進路を希望する。

「インターンシップで、伊勢和紙の大豊和紙工業さんで働かせてもらったんです。とっても素敵な経験になりました。このまま働かせてくださいって言っちゃいそうでした（笑）。この経験で、伝統工芸に係わる仕事に就きたいって決まりました」

京都にある西陣織の会社を訪問し、配色という仕事に興味津々と瞳を輝かせる。

「大学に入ったことで、先生や友達、多くの人に出会ったことで、大きなものももらったって思うんです。自分にとって、単に好きなことというだけだったものが、その世界で生きていけるんだっていう将来へ繋がったんです。自分一人の力じゃ絶対に無理ですよ。多くの人との出会いが、将来へと結びつけてくれたと思います」

学校について聞いてみれば、そう言っただけで自分の心の有り様を話してくれた。確固としたその考えに感服。近い将来、織物の世界で小さな“種”は力強い芽を吹くことだろう。

音楽学部

第34回卒業演奏会

名古屋芸術大学音楽学部の第34回卒業演奏会が3月1日(木)、2日(金)の両日にわたり、名古屋市中区伏見の「しらかわホール」で開催されました。初日は、声楽科・器楽科・音楽教育学

科から選ばれた14名の学生が、2日目は、声楽科・器楽科から13名の合計27名の学生が、在学中の集大成としての演奏(独奏・独唱)を披露しました。

晴れの舞台に立った学生たちの精一杯の演奏に、指導教員を始め関係者から惜しめない拍手が送られていました。心に残るすばらしい演奏会でした。



音楽学部

オペラ公演「カルメン」が行われました

2007年3月16日(金)、名古屋市民会館大ホールにおいて、名古屋芸術大学の第29回オペラ公演「カルメン」が上演されました。今回のオペラは、2005年11月に本学とイタリアのフェラーラ G. フレスコバルディ音楽院が、学術交流姉妹校提携を結んだことによる記念事業としての第1回国際交流記念公演となりました。

本学のオペラ研究室は、俳優・演出家・脚本家・作詞作曲家などマルチ・アーティストであるダリオ・ポニッスィ氏を一昨年より演出家として、また昨年4月からは客員教授として迎え、演出・振付や原語によるオペラ演習に取り組んできました。

このたびのフェラーラ音楽院の学生と共演によるオペラ公演は、両校の相互理解を深めると共に、海外の音楽家や声楽家との交流の場を提供する貴重な機会となりました。

ジョルジョ・ピゼーの「カルメン」は国際的にも有名なオペラで、多くの観客を魅了してきました。今回の公演は、第一幕/スペイン、セビリアの街。煙草工場前広場、第二幕/リリヤス・



バステアの酒場、第三幕/山中の密輸入者達のアジト、第四幕/セビリア。闘牛場前の賑やかな広場、に分かれて上演されました。名古屋市民会館の大ホールを埋め尽くした観客から惜

しめない拍手が送られていました。

なお、オペラ「カルメン」は3月18日(日)豊田市民文化会館大ホールでも上演されました。

音楽学部

大学院音楽研究科第9回修了演奏会

名古屋芸術大学大学院音楽研究科の第9回修了演奏会が3月6日・7日・8日の3日間にわたり、名古屋市中区伏見のしらかわホールで行われました。この春大学院を修了する学生の内10名が、在学中の研究の成果を演奏や作品発表という形で公の場に披露しました。

濱津清仁氏の指揮のもと、コレギウム・アカデミカ(名古屋芸術大学の教員を主体に構成されたオーケストラ)の演奏をバックに、「晴れの舞台」にふさわしい渾身の力を振り絞った演奏や、すばらしい作品が公開され、見応えのある演奏会となりました。



音楽学部

名古屋芸術大学オーケストラ ワークショップが行われました

名古屋芸術大学オーケストラワークショップが3月26日(月)から3月28日(水)まで、本学東キャンパスで行われました。今回の企画は、事前に参加申し込みをされた中高生や大学生、一般社会人の方々にオーケストラを編成し、演奏会を実施しようとする試みでした。

初日の26日には午前11時から開会式が行われ、指揮者、弦楽器、管・打楽器それぞれの指導講師の紹介があり、その後セッションごとのミーティングが行われました。続いて早速練習が開始され、弦楽器はヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスに分かれたパート練習が14時半まで行われ、15時からは合奏練習が2号館大アンサンブル室で行われました。管・打楽器もフルート、クラリネット、ホルン・トランペット・トロンボーン、オーボエ、バスーン、パーカッションに分かれたパート練習の後、合奏練習が17時半までみっちり行われ、初日の日程を終えました。

2日目の27日も初日と同様、午前10時から14時15分まで、楽器ごとに分かれたパート練習が行われ、その後、合奏練習が3曲(ベートーヴェン、モーツァルト、ブラームス/ビゼー)3時間にわたり行われました。

3日目はいよいよ本番演奏会を迎えました。午前中は10時から12時までリハーサルが3号館音楽講堂で行われました。今回、このオーケストラワークショップに参加された人は総勢187名で、中学生、高校生から大学生はもちろん、

音楽講師、大学教員、一般社会人、主婦など様々な人達でした。また、特別ゲストとして、ロベルト・シューマン弦楽四重奏団のメンバーも参加されました。

ワークショップ・オーケストラ演奏会の本演奏は、午後2時から4時まで3号館音楽講堂で、これまでの練習の成果を十分に発揮して堂々と盛大に行われました。曲目は、ビゼー、モーツァルト、ブラームス、ベートーヴェンの代表作4曲で、モーツァルトのヴァイオリン協奏曲では、今回の参加者の中から選ばれたソリスト7名

が登場し演奏しました。また、ベートーヴェンの交響曲第9番では、参加者の中から2人の方が指揮者となりオーケストラを指揮しました。

午後5時からは、ゲストのロベルト・シューマン弦楽四重奏団による演奏会が行われました。ドイツ国内はもちろん、ヨーロッパ各地、アメリカ合衆国、南アメリカなどで幅広い演奏活動をしている有名な演奏家のすばらしい演奏で、ワークショップの全てのプログラムを終了しました。



音楽学部

音楽教育学会東海地区例会で本学学生が 修士論文と卒業論文を発表

去る3月24日(土)、静岡市産学交流センターで開催されました日本音楽教育学会東海地区と日本音楽学会中部支部の合同例会におきまして、今春、本学大学院音楽研究科を修了しました内川澄俊と音楽文化創造学科音楽教育コースを卒業しました浅井友紀子がそれぞれに修士論文『明治期仏教唱歌の輪郭』および卒業論文『新城市における吹奏楽の現状—中学・高校に焦点をあてて』の研究成果を発表いたしました。当日は、東海地区の大学に提出されました修士論文から7編(静岡大学、愛知教育大学、三重大学、名古屋芸術大学、岐阜大学、愛知県立芸術大学)と、卒業論文から4編(名古屋芸術大学、愛知県立芸術大学、名古屋音楽大学)の

研究が選ばれ、11名の執筆者が口頭発表をおこないましたが、それぞれに研究の質が高く、興味深いテーマが多かったことから、活発な質疑応答がおこなわれ、参会者一同大いに刺激を受ける例会となりました。

本学音楽教育コースの学生たちは、既に10年近くにわたって、この例会において卒業論文の発表をおこなっていますが、特に今年度からは、大学院一期生の修士論文の発表が加わり、一層充実した幅広い研究を発表することができました。会場には本学の教員である山本先生、金子先生、藤田の他に、これから修論、卒論を履修する学生たち6名も駆けつけて、熱心に発表を聴き討論に加わりました。本学に

おける音楽教育研究活動の、さらなる充実と発展を予感させる活気がありました。

音楽学部 音楽文化創造学科
音楽教育コース教授 藤田美美子



美術学部 デザイン 学部

第34回卒業制作展／記念講演会 第11回大学院修了制作展

第34回名古屋芸術大学卒業制作展が2月27日(火)から3月4日(日)まで、また、第11回名古屋芸術大学大学院修了制作展が3月13日(火)から3月18日(日)まで愛知県内の4会場に分かれて実施されました。大学卒業制作展は、愛知県美術館ギャラリーと名古屋市民ギャラリー

矢田及び、本学西キャンパスのアート&デザインセンターの3会場で、大学院修了制作展は電気文化会館東西ギャラリーでそれぞれ行われました。

卒業・修了制作展は、この春社会へと旅立つ若者たちが在学中の成果を公開する晴れの舞

台です。苦心の末、精一杯創り上げられた数々の作品が展示されました。期間中各会場で、本学教員やゲストによる作品講評会が行われた他、3月2日(金)には、美術学部美術文化学科の「卒業論文・優秀論文発表会」が愛知芸術文化センター12階のアートスペースで行われました。また、



3月3日(土)には、同会場で「卒展記念講演会」として、作家、林真理子氏による講演も行われ、多数の応募者の中から選ばれた約300名の方々が「小説を書く時間」と題した講演を聴講されました。さらに、期間中のイベントとして、版

画選択コースの主催による「卒展会場スタンブラリー」が行われ、4会場の内、3会場以上を廻ってスタンプを集めた方の中から抽選で58名の方に、学生たちが作った版画・ドローイング・ガラス作品がプレゼントされました。今回の

卒業制作で優秀賞を受賞した学生は、別表の通りです。

本学美術学部・デザイン学部の2006年度を締めくくる恒例のイベントが盛大に行われ、終了しました。



2006年度卒業制作優秀賞受賞者一覧

学部	学科	コース	氏名	作品名
美術学部	絵画科	日本画	江端 佳世	私と影
		洋画	小村 祐太	Pulse/repose
			坂上 ちさと	ばくにゆうのたき
		版画選択	安間 史織	「ある日・・・」#3 a good harvest
	造形科	造形	末竹 杏奈	自分/400
			岡村 早希子	心柱
		彫塑	小塚 友彦	裸婦
		工芸(陶)	金 志珉	大極波食器セット (4人基準)/ 大極波皿セット
		工芸(ガラス)	田口 友里衣	遠い記憶
	デザイン学部	デザイン学科	VD	渡邊 こずゑ
IL			木下 仙子	Pinocchio
			進藤 可玉瑠	イヤイヤなヤサイ
			竹元 みお	Dinner Set × iTunes Store
EXD			福沢 幸久	
			吉田 義宏	夢のつづきを・・・
ID			河村 健太	RICORDINO～小さな 記憶の分かち合い～
SD			高瀬 秀美	ムラ・ハウス
MD			田中 良枝	origin
			TD	工藤 ちひろ
				吉田 絵莉
LS			天野 陽史	aging cosmology ～思考のための 見取り図～
	伊藤 早希	TRACES～けすコト・ きえるコト・のこるコト・ のこすコト～		

2006年度 美術学部美術文化学科 卒業優秀論文

学部	学科	コース	氏名	作品名
美術学部	美術文化学科	芸術環境 創造選択 コース	松村 淳子	「鑑賞アクティビティ」 ～美術館における 鑑賞活動の試み～

美術学部

美術学部絵画科日本画コースによる フランス サン・ヴァンサン大聖堂壁画「聖母の御眠り」模写について

フランスの絵画修復士の中にあつて第一人者である、高橋久雄先生が修復した数ある壁画の中のひとつ、シャロン・シュール・ソンス市にあるサン・ヴァンサン大聖堂の壁画「聖母の御眠り」は、聖母信仰に由来する代表的な中世の画像のひとつです。この様式はヴィザンティン美術によくみられる形ですが、フランスでは作例が少ないものです。一般には「聖母の死」といわれますが、聖母は死んだのではなく被昇天までの3日間眠っていただけという説もあり、「御眠り」ともいわれており、十二使徒たちが呼び集められ、臨終の床にある聖母マリアを取り囲んでいる、というフランスのフレスコ画を代表する秀作です。

名古屋芸術大学では、高橋先生の修復の仕事を深く尊敬すると共に美術技法の授業の中に、修復された壁画を題材として、フレスコ画の制作を取り入れてきました。フレスコ画と日本画、遠いようでいて、風合いの似た両者。日本画の紙(和紙)と日本画の絵の具(岩絵の具)によって、学生、卒業生ともどもこの歴史的遺産を模写することを企画しました。

この模写は、中世の壁画の技法、背景を探求することのみならず、美的感覚を養うことができます。このことは、数ある文化遺産を残すことにおいても、今後の美術界の発展においても有益となります。また、この作品を日仏交流150周年を迎える2008年に日仏両国で発表することによって、広く中世フレスコ画の魅力を感じていただくきっかけになると共に、日仏交流の一端を担うことができると考えております。

<模写活動の概要>

名称：シャロン・シュール・ソンス市 サン・ヴァンサン大聖堂「聖母の御眠り」模写

制作実施期間：2007年4月～2009年2月

現地制作実施：2007年8月22日～9月10日

期間：2008年6月22日～7月10日

制作内容

- ・大学において、現地取材した資料を基に下図の作成。
- ・全体の3割～5割をめどに制作。(同時進行で壁画に付随するアーチを制作)

- ・現地搬送のうえ、原画をもとに色、技法等細部にわたって再確認しながら分割し制作。
- ・大学において、確認事項、資料を基に制作。
- ・9割程出来上がった作品を搬送のうえ、現地で仕上げ。

発表：2008年9月1日～9月15日

日程 (シャロン・シュール・ソンス市)

2008年9月26日～10月5日(パリ市)

2009年2月10日～2月25日(東京都)

2009年3月1日～3月15日(名古屋市)

主催：名古屋芸術大学 美術学部

絵画科長 荒木 弘訓

制作指導主任 高橋 久雄

企画責任者 白井 久義



人間発達学部

2007年4月 人間発達学部 子ども発達学科が出身しました！

4月、第一期生170名が、子どもとは、人間とは、どのように成長・発達していくのか、そのためにはどのような環境や援助が必要なのかを学び始めました。

多くの青年たちが、子どもたちの健やかな育ちにかかわる仕事に関心をもって、保育・教育の学習・研究に取り組もうとしていることに、感動し、また心強く思います。

楽しいことに、てらいなく反応する健康さ、虐待されている子ども、障害を抱えている子どもへの優しい気持ち、こころない大人への義憤、どんどん知識や技術を吸収しようとする好奇心・意欲に、瑞々しい若さを感じます。

「青春とは人生のある期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。優れた創造力、逞しき意志、炎ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心、こういう様相を青春というのだ。年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる。―後略―」

教員たちも、ウルマンの詩を胸に、若いエネルギーに負けぬよう、「若作り」もして頑張っています。

本学子ども発達学科では、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭の養成をしますが、その理由は次のことにあります。

乳幼児期の育ちを知っている小学校教師は、
①命の誕生とその健やかな育ちのために親や保育者が注ぐ愛情と労苦の重み ②乳幼児の、生活と遊びの中での気づき、興味・関心、それを土台にしながら、感性や知性や社会性を育てていくことの大切さ ③一人ひとりを丸ごと受け止め、理解し、必要なことを見極めて援助することの大切さを体得していることでしょう。小学校の生活や学習のようすが分かっている保育士や幼稚園教諭は、幼児期に何をどのように育てることが大切なのか分かり、安易な保育で感性、知性や社会性の芽を摘んでしまわぬよう、見通しのある責任感と使命

感をもった保育者になることでしょう。

本学子ども発達学科のもう一つの特徴は、人間の精神を高揚させてくれる優れた芸術に日常的に触れることができることです。本学では日本、そして世界でも有数の芸術家たちの演奏、作品、講演が常時、各所で行われているので、学生たちは、誘い合って参加することができます。ポストン美術館・徳川美術館なども提携によりいつでも無料で入館できるので、早速行ってきて、また何回も行くと思いでいるグループもあります。

理論・実技双方の学業はもちろん、読書、クラブ活動、ボランティア活動、見学、実習…… どんどん価値あるものに触れて、内実ある自分をつくってほしいものです。

1年前期の「総合演習」では、今日の子どもをめぐる問題状況に抗して、健やかに子どもたちを育てる努力を進めている、保育所・幼稚園・小学校・施設・子育て支援センター・学童保育

所などの見学を予定しています。

6月2日には、学部行事「文化創造セミナー」があり、「自然とふるさとに向けたまなざしを育てる」という演題のもと、自然体験の楽しさ、大切さを学ぶ講演とワークショップの集いをもちました。学生たちがもっと自然の中にど

ndon出て行くようになっていくよう、学部としても、いろいろな工夫をしていきたいと思っています。

自然体験・生活体験・文化体験・社会体験を豊かに積んだ、たくましくてしかも洗練された保育者、教育者を4年後の4月、名古屋芸術大

学人間発達学部から自信をもって社会に手渡してできるよう、教職員も力を合わせて頑張っていきたいと思っています。

子ども発達学科長 野原 由利子

人間発達学部

人間発達学部 新入生の声

オリエンテーション合宿で新入生同士が、将来の夢や子どものことについて語り合いました。そのあとで学生が、こんなことを話してくれました。

初めて話す人がほとんどで、みんなどんなことを考えているのだろうと、少し不安でした。しかしみんなの話を聞いているうちに、自分と同じ様な将来の夢を抱いている人が多く、しかもみんな、夢の実現に向けての強い意志を持っていることがわかり、安心すると同時

に心強く思いました。子どもや親子のことについても、もうしっかりと観察する目を持っていたり、自分の考えを持っていたりする人もいて、今まで考えたこともないような見方や考え方があることを知りました。このような仲間がたくさんいることが、自分にとってよい刺激になると思います。広い視野を持つように、4年間多くの子どもたちや仲間とふれあい、たくさん本を読んで、勉強したいと思います。

また現在抱いている夢に向かって、学年全

体で成長していけたらいいなとも思います。それは自分のためでもありますが、私たちは人間発達学部子ども発達学科の第1期生なので、これから入学してくる学生のためにも、学年全体で夢の実現へ向けて、明るく楽しく、そして意欲的に取り組む雰囲気の学科になるといいなと思います。

夢や期待にあふれる第1期生は、頼もしい限りです。

人間発達学部

子ども発達学科 オリエンテーション合宿 — 三谷温泉「ホテル明山荘」 —

子ども発達学科では4月13日、14日の2日間、新入生を対象にオリエンテーション合宿を開催しました。会場是三河湾を一望する三谷温泉「ホテル明山荘」。日ごろとは違った環境の中で将来の夢を語り、教員や学生同士の交流をはかりました。

今回のオリエンテーション合宿は、学生が4年間の見通しを立て、意欲的に学ぶ姿勢を培うこと、そして教員と学生、学生同士の親睦を通して、対人関係のとり方を考えることを目的におこなわれました。学生たちはこの目的に沿って5つの研修を受けました。

第1の研修は、「今、教育・保育の現場に求められているもの」を知ることです。子どもを取り巻く環境の変化と現状を知り、小学校・幼稚園・保育所・施設の先生に何が求められているのかを5名の教員の講演から学びました。

第2・第3の研修では、将来の夢を語り合うとともに交流を深めました。指導教員別グループにわかれ、それぞれのグループで自己紹介をし、将来の夢を語り合いました。また、グループの全員が参加できるようなゲームを考え、みんなで遊びました。



第4の研修では、事前課題として提示していた「子ども観察」の発表をしました。子どもと保護者の様子をお互いに紹介しあうことによって、さまざまな問題を見つめることができました。

そして第5の研修では、これから始まる4年間をどのような姿勢で過ごすかについて、学

習面、生活面から学びました。また、免許資格の取得方法についても学びました。

第1日目は午後9時まで研修をするというハードな合宿でしたが、学生達は研修後も時間を惜しむことなく積極的に交流を深めていました。この積極性が学生生活に活かされることを望みます。



大学・大学院

2007年度 入学式が行われました

2007年度名古屋芸術大学の入学式が4月4日(水)西キャンパス体育館で行われました。本年度は大学院及び音楽・美術・デザインの3学部と、新設の人間発達学部を含めて756名の新入生が式に臨みました。当日は、満開の桜にもかかわらずいよゆる花冷えの肌寒い日でしたが、午前9時の受付開始と同時に、新入生が家族と共に式場に入りました。開式に先立ち、名古屋芸術大学オーケストラによる演奏(曲目:威風堂々)があり、午前10時から式典が始まりました。

開式の言葉の後、榊達雄学長から全員の入学が許可されました。続いて式辞があり、榊学長は入学生・保護者にお祝いの言葉を送ると共に、「大学は知識や技術の修得のみならず人格形成の場でもある。目標達成に向けて地道に持続的に努力することが大切であるが、現実の社会に対して広い視野を持ち、物事を主体的に判断して、自分自身の意見を持つ事が重要である。また、留学生からその国の文化や歴史を学ぶなど、大学を国際交流の場としても活用して欲しい。」と激励されました。

続いて、入学生の代表による宣誓が行われ、大学院総代として、美術研究科美術専攻の小村祐太が、学部総代として人間発達学部子ど

も発達学科の坂井洋介がそれぞれ宣誓をしました。その後、理事長の挨拶、来賓の紹介、教員の役職者紹介があり、閉式の言葉で式典は滞りなく終了しました。

式典終了後、入学生を歓迎して、名古屋芸術大学オーケストラによる演奏が再び行われました。本学音楽学部演奏学科教授古谷誠一の

指揮により、ワグナー作曲の「ニュールンベルグのマイスタージンガー」より第一幕への前奏曲が演奏されました。体育館に響き渡るオーケストラの音色は出席者の心に感動を与え、芸術大学ならではの入学式となりました。

その後、入学生には全学部共通のオリエンテーションが午後1時まで行われました。



大学・大学院

2007年度 前期 オリエンテーションが実施されました

2007年度の開講に先立ち、前期のオリエンテーションが東西両キャンパスで一斉に行われました。東キャンパスでは4月2日(月)の音楽学部と短期大学部の学部生対象の説明を皮切りに4月7日(土)の午前中まで、西キャンパスでは3月29日(木)から4月7日(土)まで、新規入学生・学部生・3年編入生・大学院生・研究生に分かれ、それぞれ実施されました。

オリエンテーションでは、教務学生課からの履修登録の仕方や授業時間割の説明を中心に、学生部や就職課など各課からのお知らせや案内、また図書館や技術管理室、保健室・学生相談室など、学内各施設の利用方法やその手続きなどについて詳しい説明が行われました。

本年度から新たに開講した人間発達学部については、新入生170名に対して、4月4日(水)

の入学式後の全体オリエンテーションから4月7日まで、学部ガイダンスや学生生活を含めた詳細な説明がありました。

なお、オリエンテーションに合わせて全学生の健康診断も行われました。



大学・
大学院

新入生歓迎会

新学期オリエンテーションの最終日となった4月7日(土)午後から、東西両キャンパスで新入生の歓迎会が行われました。

音楽学部と人間発達学部の東キャンパスでは、中庭の8号館前に設置されたステージと自治会・学友会本部を挟んで両サイドに、ラーメン、フライドポテト、焼うどん、ドーナツの模擬店やフリーマーケットなどが出店し、新入生を迎え入れました。昨年の芸祭から続けている地球環境問題に取り組むECOブースが置かれ、ゴミの分別も行われました。ステージでは、幅広い音楽とのふれあいをテーマに、ミュージ

カル公演やクラシック演奏はもちろん、ジャズ、ロック、ビッグバンドなど多彩な演奏が繰り広げられ、ビンゴゲームなども行われました。ライブ出演者の楽しそうに輝いている姿や、たくさんの音楽ジャンルに触れ合えたこと、また、先輩達と気軽に話が出来たことなどが、新入生に印象的だったようです。

美術学部とデザイン学部の西キャンパスは、テーマは「よそはよそ、うち(名古屋芸大)は、ばるぶんで」でした。「ばるぶんで」とは、人気ゲームドラゴンクエストにでてくる魔法で、何が起ころか分からないという意味です。名古屋

芸大は学年を問わず仲が良く、他の大学にはない雰囲気があり、たくさんの魅力を持った学校です。そんな名古屋芸大を少しでも早く知ってほしい、一人でも多く友達を作ってほしい、といった思いから新歓が企画されました。オープニングの下駄によるタップダンスから始まり、ゲームでは、借り物、絵心、名芸ダービー、豪華商品を懸けたクイズが行われました。他に、部活紹介などもあり、新入生も和気あいあいとした雰囲気の中で楽しいひと時を過ごしていました。



短期 大学部

音楽科研修に参加して

短期大学部音楽科では、音楽の歴史(各種楽器の発展と音楽文化)を学び、学生の音楽表現活動に役立てるために、新2年生のオリエンテーションの一環として、4月6日(金)に楽器博物館と楽器製造工場を訪ねる研修旅行を実施しました。研修に参加した学生の感想文を掲載しました。

私は今回の音楽科研修で普段何気なく奏でているピアノの生い立ちを知りました。

ひとつは、「浜松市楽器博物館」で知りました。おなじみの楽器から初めて見る民族楽器までたくさんありました。ピアノの前身であるチェンバロやクラヴィーアなどを実際に見ながら、今のピアノに至るまでの歴史をたどりました。より良い表現ができるようにと長い時間をかけてピアノにたどり着いたのです。

もうひとつは、「ヤマハ楽器豊岡工場」での管楽器製造の生産見学です。想像していたよりもずっと丹念な作業で、一つの楽器にたくさんの職人さんが手間と時間をかけている事を知りました。サク스에施されたきれいな彫刻も全ての人々の手によるものでした。例えば、学校の練習室にあるピアノも、学生が重そうに持ち運びするチェロやサクスなども全て。

博物館でも見ましたが、音楽の発展のとなりにには楽器の発展がありました。ピアノのキーの数が増えて作曲の幅が広がり、強弱の有無で表現の手段が増えました。

より良い演奏のために音楽の歴史の中でたくさんの方が研究して、それらを今の職人さんたちが引継ぎ新しい楽器を生み出します。そして、それを演奏する人それぞれが、自分の持つ表現力と技術で聴き手に感動を与えては

じめて、楽器の完成となる気がします。それが楽器と一体となって演奏する事なのではないかと思いました。

音楽の世界に、作って、聴いて、奏でる、の役割分担があつて今回はその一部を勉強できて良かったです。

学んだことをしっかり活かしてより良い演奏ができるようにこれからも頑張ります。

短期大学部音楽科2年 姜明希



デザイン学部 教養部会 准教授 萩原雄一



＊
 告白します。ぼくはサンタクロースが大好きです。「いい歳をして!」とか「大の男が!」と野次られても、いっこうにへこみません。高じて15年前から「サンタクロース学」を開祖?して、この春からは一般教養科目「教養講座(人間)」で講義まで始めました。

まずサンタさんの文化的変遷を歴史的に辿るのです。その結果、「サンタのおじいさん」と「サンタのおじさん」の違いも判明します。「サンタのおじいさん」は「いい子には飢えないためにドライフルーツなどの食べ物や贈り、悪い子にはなんとムチを与える」のです。「サンタのおじいさん」は「中世的農村共同体の規則を子どもに教え込む、なまはげの役割」を担って、その村の長老(おじいさん)が演じているのです。しかし、彼は宗教革命や産業革命の波に洗われ、海を渡ると「アメリカ型近代サンタ」に変身します。近代サンタは、いい子にも悪い子にも贈り物をします。しかも見



返りの愛を求めません。彼は「アガペ」の具象化です。こんな人のいい「おじいさん」が現実に存在するなんて!

ええ、今の邪悪なこの世で、子どもたちにサンタが存在すると言いつくすのは「性善説」を説いているのと同様です。逆にサンタは存在しないと言いつくすのは「性悪説」を教えているのです。だから「サンタさんってえ、なんかあ、夢があるう」と呟いてしまうわけは、近代サンタが性善説に立脚しているからなのです。

専門学校

名古屋保育・福祉専門学校
2007年度入学式が行われました

2007年度の入学式は4月5日(木)午前10時から、川村理事長をはじめ来賓の出席のもと本館3階の体育館で行われました。

当日は、正門にある桜も時を同じくするよう満開で、温かく迎え入れてくれました。飯島校長からは次のような激励の言葉がありました。

- ・専門職としての資質を磨くのは勿論だが、幼い子どもたちや、高齢者、障害をもった方々という弱い立場にある人々の気持ちを尊重した行動ができ、相手から信頼される専門職となれるよう、勉学に励んでほしい。
- ・学びは学校内だけではなく、学外のあらゆる

場で学ぶことは多い。自分のもつ価値観に固執することなく、柔軟でしなやかな心をもって、少しでも多くのことを吸収してほしい。

・希望をかなえるように教職員一同も一生懸命取り組んでいくので、今日の緊張感を忘れずに精進してほしい。

新入生たちは付き添いの保護者のもと、本校で学ぶ決意を新たにしていました。2年後、3年後には保育士、幼稚園教諭、介護福祉士の資格を取得して、目指す道に邁進することが期待されます。



幼稚園

幼稚園入園式

名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園の入園式が4月10日(火)に行われました。

「うちの人と隣同士で椅子に腰掛け、入園式が始まりました。」

芸大の音楽学部を卒業された方々に、『ちょうちょ』と『さんぽ』の曲をヴァイオリンで演奏していただきました。そのあとに、ネコさんと小人さんが入園のお祝いに来てくれました。そして、先生たちも子どもたちと一緒に『むすんでひらいて』をして楽しい入園式となりました。」



また、近代サンタにはこんな法則もあります。「宗教色が薄くなればなるほど人気が出る」もちろん、ぼくの講義も宗教色は皆無です。

これらを踏まえて、サンタが登場する絵本・児童文学173冊(戦後日本で発刊されたほとんど全部)を徹底的に分析しました。結果、Aタイプ(聖人サンタ)、Bタイプ(異類サンタ)、Cタイプ(人間臭いサンタ)、Dタイプ(はてなのサンタ)、Eタイプ(現実的なサンタ)、Fタイプ(社会派のサンタ)の六タイプが見つかりました。AタイプからFタイプへと移行すればするほど、高学年向きとなり、主人公のサンタは雲上人から身近なお父さんに近づく、が法則です。

さて、どうしてぼくはこんなサンタ好きになってしまったのでしょうか。そう言えば幼稚園児の頃から、12月24日の夜が楽しみでなりません。今夜はサンタのおじさんが、枕元にプレゼントを置いてくれる! 考えただけで、わくわく

します。

ああ、サンタさんに会いたい。幼稚園児は決意しました。今年こそ絶対に眠らないぞ。ぼくは普段から寝つきの悪い子どもでした。蒲団の中で、目をらんらんとさせているのは得意です。雄一、まだ起きているのか。襖一枚向こうの部屋から、父が声を掛けて来ます。うん。サンタさんに会った。父が襖を開けます。父の手のひらには赤い錠剤が一粒転がっています。睡眠薬だ。飲みな。サンタさんに会いたい。一応反発はしますが、昔の子どもは立場が弱い。結局、ぼくは赤い錠剤を飲み込むのです。すると、瞬く間に、うとうと、うとうと。あっ。はっと目を覚まして、枕元を覗くと、もうすでに赤いリボンに包まれた大きな箱が置いてあります。いつ、サンタさんが来たの。枕元に居る父に尋問します。今だよ。なんで起こしてくれないのさ。だって、お前は寝息を立てて眠っていたんだぞ。うわあ、また一年待たなければ。

ぼくは心底がっかりします。子どもの頃の一年は永遠の長さです。今なら一瞬だけけどね。この間父に文句を言ってやりました。幼稚園児に睡眠薬を飲ませるなんて、今なら幼児虐待で逮捕だよ。でも、八十を超えている父は、澄ました顔で答えるのです。なに、あれは偽薬だよ。ビタミン剤だったのさ。

ああ、今でもサンタさんに会いたい。クリスマス・イヴに一人で部屋に居ると、窓の外をシャンシャン、シャンシャンと櫓の音が通り過ぎて行きます。そうかあ、もう子どもじゃないものな。ぼくは心底がっかりするのです。そうだ、それなら、自分からサンタさんを訪ねよう。手始めはドイツ各地のクリスマス市だ! 去年のイドバンドから、サンタ関係の民俗学的探訪を始めました。えっ、サンタさんに会えたかって? そうですね、その答えは講義の中でたっぷりです。



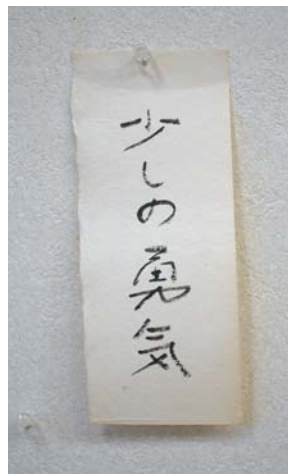
白井久義

名古屋芸術大学 美術学部
絵画科 日本画コース 教授

1953年(昭和28年)、香川県生まれ。
78年 名古屋芸術大学 絵画科日本画専攻卒業。
日春展、日展、グループ展(RON展、閑閑、風の会等)
で主に活動。
日春展日春賞受賞、奨励賞受賞。石田財団芸術奨励賞受賞。
昨年は1年間、中世フレスコ画の研究に、高橋久雄氏(名古屋芸術大学名誉教授)を頼って単身渡仏。
この4月に帰国したばかり。



マスター ↑↓to アーティスト 【第1回】 〈少しの勇氣〉



整然と片付けられたガランとしたアトリエ。1年もの間、主を失った部屋は膠(にかわ)の香りこそ満たしていないものの、その気になればいつでも創作に取り掛かれる準備はできていたようだ。忠実な猟犬のように、主の帰還を待ち焦がれていたに違いない。1年間の単身での渡仏を終えて、帰国したばかり。お話は必然的にフランスのことになった。

「周りが師ってというか、すべてが自分のエネルギーになることばかりです。ありがたいものばかりですね」言葉すらままならない異国の地でたった一人。限りない自由と不自由さが同居する環境、その中に身を置き、自

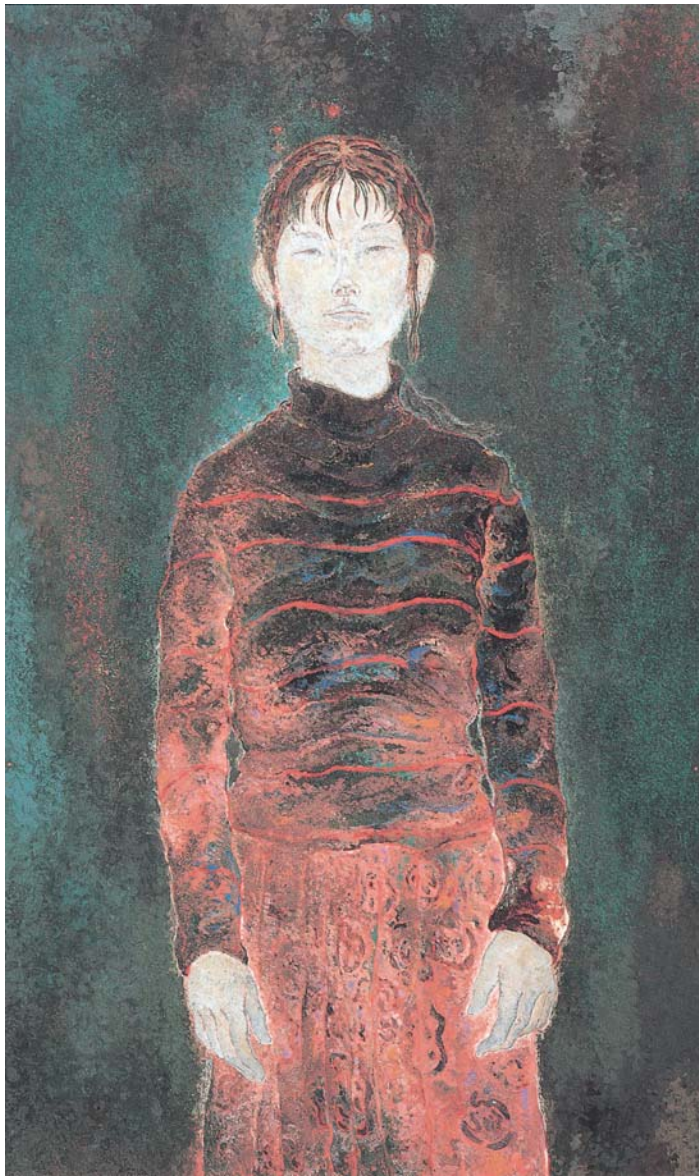
分の生き方について考えることとなった。

「中世のフレスコ画の研究ってことでですけど、それと同時に、絵のこと、人との関係、学生とのかかわり…、自分の生き方について原点に戻ってというか、一度ニュートラルな状態に戻して考えてみたかったです」

「絵を描くのは充実した時間なのですが、とても苦しい作業なんです。絵というのは数学なんかと違って答えがない。答えがないからしんどい。自分の到達点を、その都度その都度、探していかなきゃいけない。それこそ胃が痛くなるほどしんどいんです。

でも、完成して出展すると絵がアトリエからなくなる。壁を見ながら『もう一回悩みたいな』と、快感が押し寄せてくるんです。苦しいけれど幸せなことなんですね」常に考える。手を動かしながら、絵を描きながら考える。自由であればあるほど、その答えも簡単には見つからない。「自分の価値観が揺らぐんです、毎回、毎回。これでええんやろか…って」

日本画とフレスコ画。高度な計画と技術を必要とするフレスコ画は、洋画の世界でもひとつの到達点といえるもの。何故、日本画家とフレスコ画が結びついたのか、その答えは



『女』1997年 162.1×97.6



『時』2003年
130.3×80.3



『まどろむ』2002年
130.3×89.4

明快だった。

「フレスコ画は、水じゃないですか。日本画と洋画の違いって、簡単にいってしまえば絵の具の違いなんです。洋画が油なら、日本画は水。岩絵の具に、水、膠、それから和紙ですね。フレスコ画は水なんです。絵肌は日本画に近いと感じます」洋画の真髄にあるようなフレスコ画が日本画家を魅了する。伺ってみれば合点のいく説明。と同時に、日本画、洋画といった分類を飛び越えた絵画そのものの魅力に気付かされ、また、その世界に身を置き、魅了され、模索し続ける氏の姿も自ずと浮かび上がってくる。「洋画には洋画の素晴らしさがありま

す。でも私は日本画の風合いに、絵の具にも、紙にも、筆にも、惹かれます。膠の匂いはふるさとみたいな感じがするんです」フレスコ画を研究しつつも、自分の中にある何かを探し続ける。

「絵描きは貯金で描いちゃいけない」お話を伺ううちに何度も繰り返された言葉。毎回、新鮮な気持ちで絵に向かい、自分の価値観を問い直す。他人の評価に甘んずることなく、自分に素直に生きることの難しさ。「自分で誤魔化している時って誰しもあると思うんですよ。でも、おかしいなって思ったときに直せる勇気を持つこと。

これが素直に生きることだと思っています」アトリエの壁の片隅に、「少しの勇気」と書かれた紙が貼られていた。絵画への苦悩と喜び、素直さ、勇気、考えること、生きるすべ…。小さな紙にすべてが入っていた。



2007年6月以降の主な行事・イベントスケジュール

音楽学部

- オープンキャンパス
6月16日(土) 10:00～
本学東キャンパス
- 第1回国際交流教員コンサート
名古屋芸術大学と慶南大学校
6月21日(木) 15:00開演
本学東C3号館音楽講堂ホール
- 第9回ピアノコンチェルトの夕べ
7月19日(木) 18:30開演
しらかわホール
- 夏期音楽講習会
7月22日(日)～25日(水)
本学東キャンパス
- 第2回国際交流教員コンサート
名古屋芸術大学とリスト音楽院
7月31日(火) 18:45開演
しらかわホール
- 第9回ピアノ・サマーコンサート
8月4日(土) 15:30開演
電気文化会館
- 名古屋芸術大学ウィンドオーケストラ
第26回 定期演奏会
9月27日(木) 18:30開演
愛知県芸術劇場
- オープンキャンパス
9月29日(土) 10:00～
本学東キャンパス
- 名古屋芸術大学スペシャルコンサート
コンチェルトの夕べ
10月4日(木) 18:30開演
しらかわホール
- 研究生特別演奏会
10月25日(木) 18:00開演
電気文化会館
- 第15回ピアノの夕べ
11月8日(木) 17:30開演
電気文化会館
- 第30回定期演奏会
11月15日(木) 18:00開演
しらかわホール

- 名古屋芸術大学オーケストラ
第25回定期演奏会
11月29日(木) 18:45開演
愛知県芸術劇場
- 電子楽器コース演奏会
12月12日(水) 18:30開演
熱田文化小劇場
- 第26回室内楽の夕べ
12月13日(木)・14日(金)
両日とも18:00開演予定
熱田文化小劇場
- 2007年度 音楽企画(5)
“ザ・ルネッサンス21”
12月20日(木) 18:30開演
しらかわホール
- 冬期音楽講習会
12月24日(月)～27日(木)
本学東キャンパス

美術学部 デザイン学部

アート&デザインセンターの展覧会
スケジュールは別途掲載しています。

- アンティバスト展
5月31日(木)～6月5日(火)
6月2日(土) 13:00～16:30
公開講義とガーデンパーティ
本学西キャンパスX棟・B棟
- 2008年度入試 教育懇談会
6月1日(金) 15:00～
名古屋マリオットアソシアホテル
- オープンキャンパス入門編
6月16日(土) 10:00～
本学西キャンパス
- 名古屋ポストン美術館との共同教育プログラム
「Go Go びじゅつかん! 2007」
7月7日(土)・8日(日) 12:30～
名古屋ポストン美術館
- オープンキャンパス体験編
7月14日(土) 10:00～
本学西キャンパス
- 造形科サマーセミナー
7月30日(月)～8月1日(水)
本学西キャンパス

- オープンキャンパス進学編
9月16日(日) 10:00～
本学西キャンパス
- モーターショーモデル開発&
プロダクトデザイン展
11月3日(土)～11月21日(水)
(2007年度特別客員教授
奥山清行 デザインワーク展)
本学西キャンパスA&Dセンター

- 芸大祭(全学同日開催)
10月26日(金)～
10月28日(日)まで

人間発達学部

- 文化創造セミナー
6月2日(土) 15:00～
本学東キャンパス3号館
- オープンキャンパス
6月16日(土) 10:00～
本学東キャンパス
- オープンキャンパス
7月22日(日) 10:00～
本学東キャンパス
- オープンキャンパス
8月25日(土) 10:00～
本学東キャンパス
- オープンキャンパス
9月29日(土) 10:00～
本学東キャンパス
- 文化創造セミナー
12月8日(土) 15:00(予定)

名古屋保育・福祉専門学校

- 進学説明会
6月16日(土) 13:00～
- 進学相談会 10:00～
10月6日(土)、10月20日(土)
11月17日(土)、12月1日(土)
- 体験入学 13:00～
7月7日(土)、7月28日(土)
8月18日(土)、8月25日(土)
9月8日(土)、9月29日(土)

- 入学選考日
9月22日(土) 社会人対象
10月13日(土)、10月28日(日)
11月10日(土)、11月24日(土)
12月8日(土)

- 学校祭
11月17日(土) 10:00～

幼稚園(クリエ)

- 親子で吹奏楽を楽しもう
6月23日(土) 10:00～
- クリエ祭り
8月25日(土) 16:30～
- 運動会
10月13日(土) 9:00～
- 親子で合唱を楽しもう
11月17日(土) 10:00～
- 発表会
12月15日(土) 9:30～
- クリスマス会
12月20日(木) 10:30～

幼稚園(滝子)

- 七夕祭り
7月6日(金) 10:30～
- 同窓会
8月23日(木) 10:00～
- 夏祭り
8月25日(土) 15:00～
- 運動会
10月14日(日) 9:00～
- 作品展
11月17日(土) 9:00～
- クリスマス会
12月14日(金) 10:30～
- おもちつき
12月20日(木) 10:30～

編集後記

本年度からグループ通信の誌面を充実させました。ボリュームをこれまでの2倍程度まで増やし、連載記事も組み入れました。本学の卒業生の中から社会で活躍している著名な人物を紹介する「クローズアップ NUA-ism」と、大学の教員であると共に、芸術家として別の顔を持つ教授陣にスポットをあてた「マスター toアーティスト」を掲載します。また、学生や大学院生の日常の活動を紹介する「NUA スチューデント」も連載する予定です。さらに、コラムや入試・進学と就職の情報コーナー(エンタジット)なども設けて、より楽しく読める誌面作りを目指しています。ご期待ください。

今回の特集は、2008年度から改編が計画されている美術学部とコースが増設されるデザイン学部を取上げました。美術学部は学科が統合され、新たに6つの領域と10のコースに再編成されます。デザイン学部は、新たに2コースが増設されます。既存の教育内容が更にパワーアップされ、学生たちにとっては、選択の幅が広がることになります。

本年度のグループ通信は年3回発行(6月・10月・2月)を予定しています。誌面は本学ホームページからもダウンロードできます。掲載内容に関するお問合せやご意見は、芸術文化交流室までお寄せください。お待ちしております。(ひ)



大学基準協会の 認証評価に合格しました

本学は2006年4月に、認証評価機関である大学基準協会の大学基準に適合と認定され、正会員になりました。認定期間は、2006年4月から2011年3月までです。これによって、法令化されている「第三者による認証評価」にも合格したことになります。



【表紙の作品】

『NAGOYA』貝吹 いずみ
2006年度卒業制作作品
※オリジナルを元に一部加工して表現

発行:名古屋芸術大学
編集:全学広報誌編集委員会
制作:(株)クイックス
発行日:2007年6月1日

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学 芸術文化交流室
〒481-8535
愛知県北名古屋市徳重西沼65番地
電話 0568-24-0325
Fax 0568-24-0326